

2015 年度

# 事業計画書

公益財団法人宇宙科学振興会

# 2015 年度事業計画書

2015 年度は当財団が公益財団法人に移行して 4 年目に入る。2014 年度においては主要指定基本財産 4 件の内 3 件が満期買い替えとなり収入減が心配されたが、資金運営委員会の努力で 2013 年度並みの基本財産運用益が得られた。2015 年度は指定基本財産の内の 3,000 万円が 8 月に満期償還となり多少の減収が予想されるが、一方寄付金収益があり収入は昨年度並みと考えられる。この状況に鑑み遂行する公益目的事業は、定款の定めを通り宇宙科学分野における学術の振興に重点を置き、移行時に公益目的事業として申請した、①宇宙科学奨励賞事業、②国際学会出席旅費支援事業、③国際学会開催支援事業を例年並みの規模で継続して実施するものとする。

宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙活動に関する他団体が中心の事業への支援・協賛事業は、旧財団において継続的に実施してきた項目について、移行後規模を縮小して財団管理運営に関わる法人会計の範囲内で継続しているが 2015 年度新規 1 件を加え、その他は昨年度並みの水準で実施することにする。

予算案作成においてこれら法人会計ならびに公益目的事業会計に充てる収入は運営費に充てる流動資産と該当年度の債券配当収入による。2014 年度は前年度の寄付金収入の影響もあり、年頭における流動資産の額と年度末の流動資産の額はほぼ安定しており、今年度の予算編成に支障はないと考える。当財団では公益財団法人移行以前の 2011 年度より新法人法で指定された平成 20 年度会計基準（通称 20 会計）に基づいた会計処理を実行しており、次年度もこの基準に基づいて会計処理を行う。

なお、2013 年 3 月 12 日の第 2 回評議員会で第 1 号議案として決議されている『**財団運営の課題と一般基本財産の処分と除外**』を発動して、「①一般基本財産の一部（遊休財産保有限度額を超えない範囲）の処分（売却及び運営資金として流動資産へ振替）と残余を除外（学術振興助成基金として特定資産へ振替）すること、②その実施時期を 2014 年以降に行い、2015 年度よりこの一般基本財産の処分と除外を予算編成に組み込むことが必要ならばこれを実施する」とした議決は、その後 500 万円の寄付金により状況が変化し必要がなくなった。従って今回はこの決議の執行は見送り、一般基本財産の処分と除外が必要な事態に至った際には改めて評議委員会に上程し、ご審議願うこととする。

## I. 公益目的事業

### (1) 宇宙科学奨励賞事業

当財団の前身である財団法人宇宙科学振興会では宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ、将来宇宙科学を推進する中心となるものと期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的とした宇宙科学奨励賞を平成 20 年度に創設した（旧財団法人宇宙科学振興会寄附行為第 2 章第 5 条の 5）。この事業は公益財団法人宇宙科学振興会に移行後も主要な公益目的事業として継承されており、2015 年度は第 8 回とな

る。この事業ではまず関係学会に候補者の推薦依頼をし、宇宙科学各分野の研究者より、37歳以下（これは大学院卒業後約10年間を目途とするとの趣旨）で最近著しい成果を挙げている若手研究者を推薦していただく。そして寄せられた推薦に基づいて、宇宙科学各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の審査・選考を進める。選考委員会は原則として宇宙工学関係から1名、宇宙理学関係から1名、合計2名の候補者を選出する。理事会はその選考委員会の推薦に基づいて該当年度の授賞者を決定する。

宇宙科学奨励賞候補者の推薦依頼に関しては、まず当財団の公式ホームページに公示すると共に関係学会（現在は15学会）の学会誌または学会ホームページに推薦依頼の掲示をお願いする。併せて宇宙科学研究所の宇宙理学委員会班員、宇宙工学委員会班員及び宇宙環境利用科学委員会に案内通知を送付する。推薦された候補者の選考は 規程に定める選考委員会で行い、これに基づき理事長が理事会の委任を受けて決裁を行う。授賞者には表彰式において本賞（賞状と表彰楯）と共に副賞を贈呈する。副賞賞金は当初20万円であったが、2013年度年度より30万円に増額されている。

2015年度は7月中に各界への推薦依頼を行い、10月31日推薦締め切りとし、選考委員会による審査選考は11月～12月の間に行う。選考の結果については2016年1月中に授賞者は本人、推薦者他関係者に通知されると共に財団の公式ホームページに選考経過とともに発表される。そして2016年3月には定例役員会の後に、当該年度の宇宙科学奨励賞受賞者の表彰式及び受賞記念講演を行う。受賞記念講演はホームページに公開されるとともにその対象となった研究の概要は宇宙科学研究所のI S A Sニュースに投稿される。最後に、受賞者のお祝いと当財団の事業推進を支援いただき、運営に協力いただいている関係各界に対するお礼を兼ねて祝賀会をとり行う。この事業に対する今年度の助成金総額は別表1の通り60万円とする。ただし、受賞者およびその関係者には遠方より参加の場合は交通費を支給するが、その額は2人合わせて20万円を上限とする。

## **(2) 国際学会出席旅費支援事業**

この事業は旧財団において1997年度に創設された。当初は宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている35歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の支援を行ってきた（旧財団法人宇宙科学振興会寄附行為第2章第5条の2）。2006年度からは、大学及び研究機関などを退職後も、活発な研究を行っておられるシニアの研究者の方に対しても、支援を開始している。

この事業は公益財団法人宇宙科学振興会に移行後も主要な公益目的事業として継承されている公募型の事業である。渡航支援の公募は年度上半期（4月～9月）開催の国際学会に出席・論文発表する者には応募締切日を2月28日に、年度下半期（10月～翌年3月）開催の国際学会に出席・論文発表する者には応募締切日を8月31日に指定して募集する予定である。

この募集に応募し、旅費支援を申請した応募者は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。従来応募総数に対する採択率は概略3分の1程度である。審査の結果採択された助成対象者には、本人に対して渡航費として助成金の支給を行い、その発表論

文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報を含めて財団のホームページに公表される。そして渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を提出願い、それをホームページに掲載している。

過去 18 年間に応募を採択し旅費の支援を行った件数は 200 件を超える。初期に助成した若手研究者の多くは現在既に宇宙科学研究所や全国の大学で教授・准教授として、また宇宙関連の企業の中核として宇宙開発に当るなど、宇宙理工学の発展を支える中心的人材として活躍している。また、最近助成した若手研究者もその報告書の中で、本財団の支援が研究意欲を高め、研究の視野を世界に広げるのに役立ったことなどが述べられており、本事業は概して高い成果を挙げていると考えられる。なお、本公募で採択されその助成金で国際学会に出席し論文の発表をした者は、帰国後 1 か月以内に財団に報告書を提出していただき、これを編集したものを財団のホームページに掲載する。

2015 年度は上記の募集を、①財団の公式ホームページに公示、②関係学会（現在 15 学会）の学会誌または学会ホームページ、および ③宇宙科学研究所の宇宙理学委員会、宇宙工学委員会及び宇宙環境利用科学委員会を通じて通知される。公募においては助成金額を 1 件当たり 10～25 万円としており、この事業に対する今年度の助成金総額は別表 1 の通り 200 万円とする。したがって、2015 年度中に 10 件前後の国際会議出席旅費支援が可能である。

### （3）国際学会開催支援事業

宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学を含む）の国際学会・研究集会の日本国内での開催を主催する組織・団体に対する支援・助成は当財団の前身である財団法人の創設（1990 年）当初より行われてきた（財団法人宇宙科学振興会寄附行為第 2 章第 5 条の 3）。ただし、当初は宇宙科学分野の国際学会・研究集会の主催は宇宙科学研究所の研究者が行うことが多かったので、全国公募ではなく宇宙科学研究所内部の研究者または衛星プロジェクトなどで宇宙研と共同研究を進めている各大学の研究者が応募の対象となった。

その後この助成事業に対し全国的に関心・期待が高まってきたことをうけ、2007 年度よりこれを宇宙科学研究所の衛星事業に限らず、全国の研究機関・大学において理論分野等も含めて宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合には応募できるように、全国の研究機関・大学を対象とした公募型事業に発展させてきている。1990 年より 2014 年までの 24 年間に 72 件の国際学会・研究集会の日本国内における主催を支援してきた。当初は年間 2～3 件の助成申請であったので、申請された支援要請の審査に関しては、申請を受理するたびに審査会を開催し、その学術的意義と効果の審議により採否の判定をしていた。この事業も公益財団法人宇宙科学振興会に移行後も公益目的事業として継承された。全国応募型に移行したことに伴い、最近では応募件数の増加傾向が著しく、当財団で可能な本事業に対する予算枠内で全てを採択することが困難となってきた。そこで従来の随時申請受け付け型を改め、2011 年度以降は年度の上半期（4 月～9 月）開催分の応募の締め切りを同年（前年度に該当）1 月 15 日、下半期（10 月～3 月）開催分の応募申請の締め切りを 7 月 15 日とすることにした。これは、財団の限度のある資源内で応募の機会均等性を

保証するためである。

国際会議開催への支援はその研究分野への波及効果大きいため、この事業に対する全国関係者の期待が高まっている。この事業に対する 2015 年度助成予定総額は別表 1 の通り 150 万円とする。1 件当たりの助成額は開催する国際学会の規模に応じて 30 万円～50 万円とするが、その助成額は研究助成審査委員会において、申請された日本国内における国際学会開催の学術的意義、分野への波及効果、助成金の使途の有効性を評価したうえで査定頂き、理事長は理事会の委任によりこれを決裁する。前期、後期併せて 3～5 件程度の国際学会開催に対して助成を行える予定である。なお、審査の結果採択された助成対象国際会議は、その開催代表者、国際会議名、開催場所、日時等の情報を財団のホームページに公開される。また、当財団の支援を受けた国際会議についてはその旨を報告書や論文収録に記載いただき 1 部寄贈いただくとともに、会議の様子、成果をまとめた報告書を提出いただき、これをホームページに掲載・公開する。

表 1. 2015 年度予算作成に当たり、公益事業助成金の配分を以下の通りとする。

助成金	(参考) 2014 予算額	(参考) 2014 採択額	2015 年度 予算申請額	
			2015/2/28 4-9 月分	2015/8/31 10-3 月分
旅費支援				
2014/1/15 4-9 月分	1,200,000	470,000	1,200,000	
2014/5/15 7-9 月分	0	950,000		800,000
2014/7/15 10-3 月分	800,000	750,000		
計	2,000,000	2,170,000	2,000,000	
開催支援				
2014/1/15 4-9 月分	900,000	800,000	900,000	
2014/7/15 10-3 月分	600,000	400,000	600,000	
計	1,500,000	1,200,000	1,500,000	
奨励賞 賞金				
授賞者@30 万*2	600,000	未定	600,000	
旅費:授賞一人あたりの 上限@10 万とする。 (授賞+招待)*2=20 万	200,000	未定	200,000	
計	800,000	未定	800,000	

## II. 財団の管理運営等法人会計関係

### (1) 宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙事業

当財団の前身である財団法人宇宙科学振興会は設立当初は文部科学省国立大学共同利用機関であった宇宙科学研究所と連携して、同研究所が主催した事業、行事について後援または支援を行ってきた（旧財団法人宇宙科学振興会寄附行為第2章第5条の4）。この連携協力関係はその後同研究所が宇宙3機関の統合により宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究本部（現在 JAXA/宇宙科学研究所）となった後も継続していた。その後旧財団の支援事業は広くその他の団体が主催する宇宙科学に関する研究・教育・啓蒙活動の支援に拡大されていた。ところが前述したようにこれらの事業は企画・運営を他機関・団体が行い、財団はそれを協賛する立場で協力するものであるため、当財団の主体的公益目的事業とはいえないことから公益財団法人に移行後は規模を縮小して法人会計の枠内で実施することとなった。他組織・団体の事業・イベントに対し協賛、支援または協力を行うか否かは理事会傘下の運営委員会で審議して決めることとする。最近数年以上にわたって継続的に協力、協賛、支援しているイベントは別表2の通り5イベントである。これらの団体から2014年度に引き続き支援要請がある場合にはこれに協力する。宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙事業に対する協力には「共催」、「支援」等の名義提供のみの場合と協賛金の提供があるが、2015年度の協賛金提供予算額は別表2の通り85万円とする。なお、2015年度より「能代宇宙イベント」への協賛費を新規1件加え（協賛費10万円）、その他は昨年度並みの水準で実施することにする。

なお、公益目的事業および財団の管理運営に必要な、職員給与、会議費、交通費、什器備品消耗品購入費、賃借料、支払手数料等、一般的な経常費については前年度実績に準じて予算計上する。

表 2. 2015 年度予算作成に当たり、管理費払いの協賛金の配分を以下の通りとする。

助成内容	(参考) 2014 年度予 算	(参考) 2014 年実績	2015 年度 予算申請額
1 財団法人日本宇宙フォーラム/ 衛星設計コンテスト協賛金	120,000	未請求	120,000
2 日本航空宇宙学会/ (隔年開催 ) 宇宙技術および科学の国際シンポジウム	0	0 *2013 年度は 10 万円	100,000
3 JAXA/ 君が作る宇宙ミッション事務局 協賛金	130,000	130,000	130,000
4 JAXA/ 特別公開共催スタンプラリー景品代*2000 個	200,000	199,734	200,000
5 日本モデルロケット協会/ モデルロケット全国大会助成金	200,000	200,000	200,000
6 能代宇宙イベント (新規)	-	-	100,000
合計	650,000	529,734	850,000